

# 野鳥観察へ GO

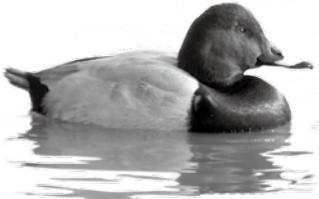
## ～安来で見られる鳥～

平成29年の十二支はとりです。とり年にちなんで安来で見られる鳥の一部を紹介します。安来では一年を通して多くの鳥が見られます。身近にいる鳥や珍しい鳥を観察してみましょう。

※鳥の写真提供・説明文協力  
公益財団法人中海水鳥国際  
交流基金財団（米子市）

### ①ミサゴ

中海で一年中見られる、魚を主食とするタカです。飯梨川の河口でよく見られます。



### ②ホシハジロ

キンクロハジロと並んで、秋から冬の中海を代表するカモです。赤い頭と黒い胸、灰色の背中が特徴です。



### ③オオバン

全身真っ黒でくちばしが白く、丸い体型をした個性的な水鳥です。潜水が得意で、盛んに潜って水草を食べます。



### ④キンクロハジロ

秋から冬にかけて中海に多数飛来する、中海を代表するカモです。黄色い目と白黒模様、ちょんまげ頭が特徴です。



### ⑦ハマシギ

中海に秋から春にかけて見られるシギの仲間です。数十羽から100羽以上がひしめき合って水面上を飛び交います。



### ⑥ツグミ

冬の農耕地で普通に見られる赤褐色の鳥で、実のなる木に集まって実をついばむ様子がよく見られます。「キーンキーン」「クワックワツ」などとよく鳴きます。

### ⑤コハクチョウ

市の鳥に白鳥が選定されているとおり、市を代表する冬の水鳥です。安来平野には毎年1000羽以上が飛来し、西日本最大の越冬地となっています。



## 水鳥や中海を守る

### ラムサール条約

汽水湖である中海は、多くの生物がすみ、豊かな生態系を育んでいます。冬季には、コハクチョウをはじめ、マガン、カモ類など数万羽の鳥が飛来し、西日本有数の渡り鳥の生息地としても知られています。

この貴重な資源を守るため、中海と宍道湖は2005年11月からラムサール条約という国際的な条約に登録されています。

ラムサール条約は湿地に関する条約です。1971年にイランにある「ラムサール」という都市で最初に採択されたため、その名が付けられました。湿地は、多様な生物を育み、特に水鳥の生息地として重要な場所です。しかし、以前は干拓や埋め立て等の開発対象になりやすい場所でした。また、水鳥の多くは国境に関係なく渡りをすることから、国際的に協力して保全しなくてはいけません。当初は水鳥の保護に重点が置かれていましたが、現在では水





### ⑨カモメ

冬の中海でよく見られるカモメの仲間です。目が黒っぽく、くちばしと足が黄色なのが特徴です。幼鳥は全身が灰色です。



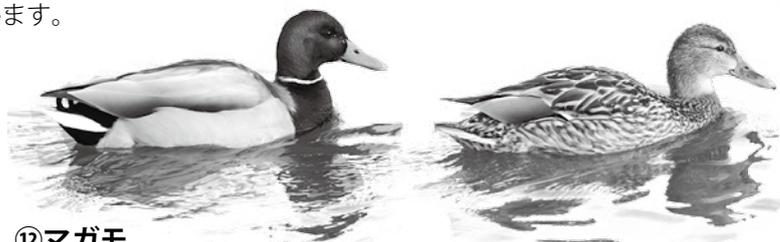
### ⑧クロツラヘラサギ

世界で3300羽くらいしかいないといわれる珍しい鳥で、秋から春にかけて、飯梨川の河口に時々飛来します。しゃもじのような大きなくちばしと黒い顔が特徴です。



### ⑩ハヤブサ

市内で一年中見られる猛禽類で、飯梨川の河口でよく見られるほか、水田地帯の鉄塔にもよくとまっています。



### ⑫マガモ

カモを代表する鳥で、冬に中海の湖岸でよく見られます。オスはメタリックグリーンの頭がとても美しいです。



### ⑪ハジロカイツブリ

冬の中海で見られる代表的なカイツブリの仲間で、数十羽がひしめき合っ泳いでいる様子が時々見られます。

### ⑮カワセミ

水辺の宝石と称される、とても美しい鳥です。小魚がいる様々な水辺で、一年中普通に見られます。



### ⑭マガン

秋から冬にかけて、安来平野に数百羽の群れで飛来します。国の天然記念物に指定されていて、米子水鳥公園をねぐらにしています。



### ⑬カワウ

中海や川で一年中見られます。水辺で翼を広げて羽を乾かしている様子が見ていて面白いです。



宍道湖・中海ラムサール条約シンボルマーク

鳥だけではなく、魚類や人工の湿地、地下水系、浅海域など湿地の持つ幅広い機能を保全するための条約となっています。条約の対象となったことは「世界的に重要な湿地」と認められたことでもあります。しかし、採択されただけでは効果は現れません。採択を契機として、周辺の住民と行政がその価値を認識し、一体となって中海の資源を守ることが重要です。

安来市では周辺自治体と共同で清掃活動や、小学生を対象とした探検クルーズ、自然観察会、あるいは定期的に野鳥観察会を行うなど、保全、活用、環境教育などの取り組みを行っています。

中海の美しい自然を守るため引き続きご協力をお願いします。